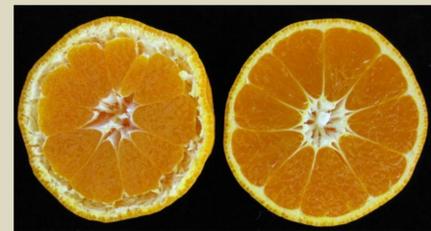


早生・中生ウンシュウミカンの浮皮軽減技術の開発



(独)農研機構 果樹研究所、和歌山県果樹試験場

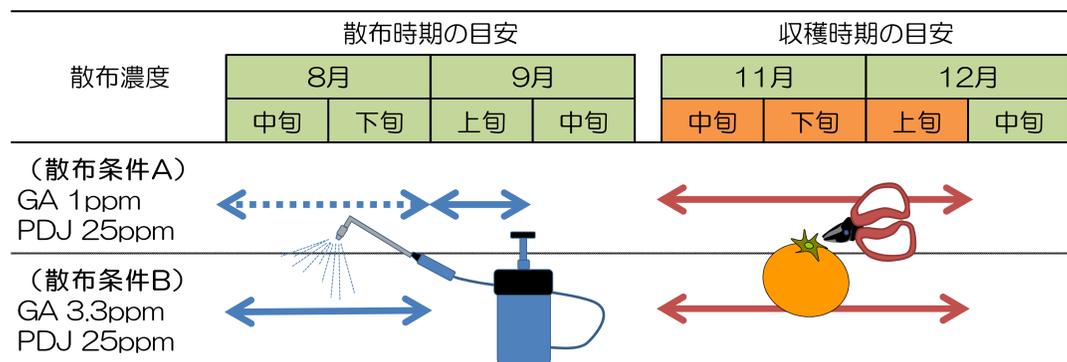
温暖化により、ウンシュウミカンの浮皮が顕著になり、食味の低下や腐敗の増加が予想されます。そこで、ジベレリン(GA)とプロヒドロジャスモン(PDJ)を用いた、早生及び中生ウンシュウミカンの浮皮軽減技術を開発しました。



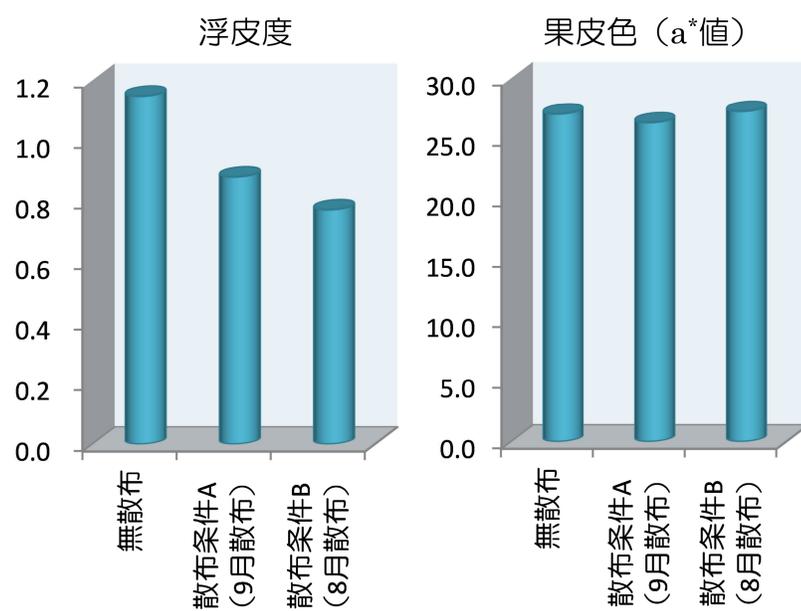
浮皮果(左)と正常果(右)
注)浮皮果は、食味が悪く、腐りやすいです。

1 浮皮を抑制して慣行の時期に収穫する

対象品種: 早生及び中生ウンシュウミカン



- 収穫時期の目安のオレンジ色の時期は想定している慣行の収穫期。
- PDJの25ppmは、ジャスモメート液剤を2000倍に希釈して作成。
- 着色遅延が出やすい園地では、散布条件Aの濃度で破線の矢印の時期に散布。

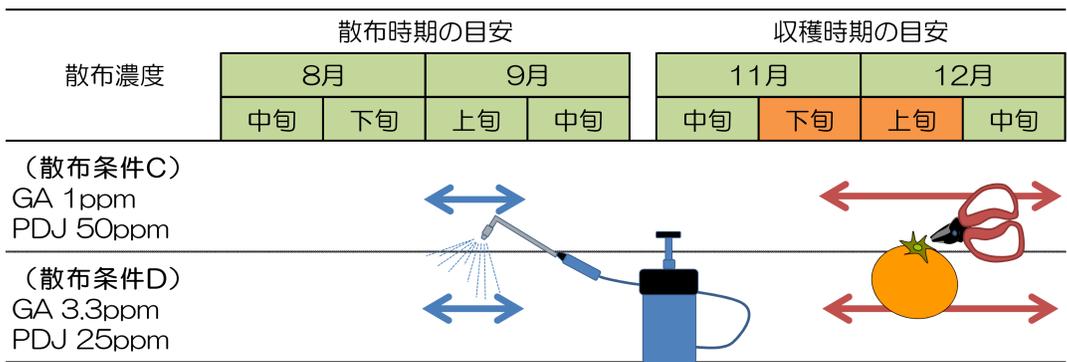


散布条件Aと散布条件Bでは、浮皮が抑制され、着色は遅れません。

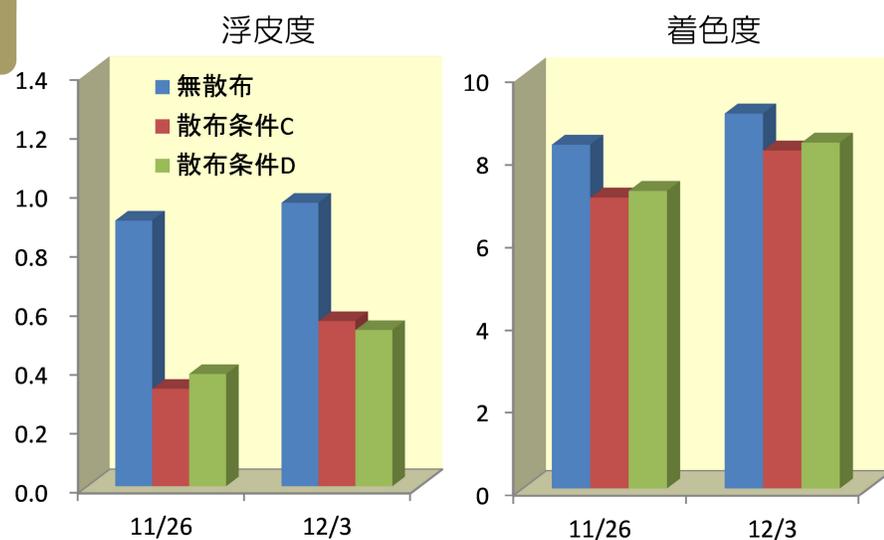
向山温州に散布条件Aは9月1日に散布条件Bは8月15日に散布し、12月5日に収穫。和歌山県果樹試験場。

2 浮皮を強く抑制して収穫時期を計画的に遅くする

対象品種: 中生ウンシュウミカン



- 収穫時期の目安のオレンジ色の時期は想定している慣行の収穫期。
- PDJの25ppmと50ppmは、ジャスモメート液剤をそれぞれ2000倍と1000倍に希釈して作成。



散布条件Cと散布条件Dでは、浮皮が強く抑制されています。着色は1~2週間程度遅れます。

シルバーヒル温州に9月3日に散布し、11月26日と12月3日に収穫。(独)農研機構果樹研究所カンキツ研究興津拠点

本技術は使用する作型に応じて散布濃度や散布時期を選定して導入できますので、事前に地域の試験研究機関や技術指導機関に相談してください。